

特定非営利活動法人 神奈川子ども未来ファンド 2006 年度事業報告書
2006 年度 (2006 年 4 月 1 日 ~ 2007 年 3 月 31 日)

2006 年度は、子ども達が自ら命を絶つ事件報道が続き、子どもの育ちに社会的な関心が集まりました。神奈川子ども未来ファンド（以下、ファンド）は、子どもや子育て中の親たちに向けて、応援する組織・個人の存在を伝え、広く社会に向けて寄付協力の機会をつくり、応援の輪を広げるよう努めました。

本年度は運営委員会を設置し、事務局とともに事業の企画検討や実施できる体制が整いました。ボランティア、県内 N P O や各種組織、企業の参加、協力を得ながら取り組みました。

ファンドの認知度を高める一つの方法として、新パンフレットを作成し横浜市内全特定郵便局への設置協力をいただきました。また、賛同人・組織の依頼を積極的に行った結果、社会認知度の高い、ミュージシャンのゆず、スポーツ選手の石井琢朗選手・三浦大輔選手、村田修一選手等のご賛同をいただくことができました。

また、4 度目の N P O 助成の公募・選考を行い、総額 2,244,000 円を 6 団体へ助成する事が出来ました。N P O の活動を情報面で支援するための W E B サイトの充実、メルマガ、広報紙発行等にも取り組みました。

啓発イベントとして、2007 年 3 月 10 日日産スタジアムにおいて子育て・若者の育ちを応援する県内の 20 数団体が出展した「こどもまつり 2007」を盛況に開催することが出来ました。

寄付の受入れを推進するために「認定 N P O 法人」申請を行い、2007 年 3 月末に認定を受け、社会的信頼性を高めることができました。

1 各種寄付プログラム実施と寄付の受け入れ

2006 年度寄付総額：5,566,937 円（内訳下表参照）（前年度比+1,889,038 円）

寄付協力組織数：92 件（昨年度比+28 件）

定期定額募金登録・個人寄付者数：122 件（昨年度比-190）

種 別	金額(円)	割合(%)	協力個人	協力組織数
個人からの寄付	1,349,997	24	51 名	
企業からの寄付	1,122,000	20		5 件
他組織のチャリティイベント等からの寄付	1,092,835	20		12 件
職域での寄付	912,580	16		9 件
定期定額募金(旧コーヒー募金)	276,500	5	62 件	1 件
募金箱	270,619	5		40 件
応援商品寄付プログラム	175,037	3		書籍1件、CD 2 件
書籍売上からの寄付	117,201	2		12 件
イベント出店を通じての寄付	111,535	2		6 件
物品寄付の現金換金分	87,058	2	1 件	3 件
マイバッグ寄付プログラム	27,575	1		商店街 1 件
インターネット募金	24,000	1	8 件	
合 計	5,566,937	100	123 名	92

(1) 2006年度の寄付協力

企業の周年記念チャリティ事業からの寄付など、これまでと比べ企業寄付の比率が高まりました。また、遺産関連の個人寄付を初めて受け入れました。価格の一部に寄付金が含まれる「子ども応援商品」も複数ご協力いただきました。

子ども応援商品

書籍「居場所のちから」西野博之著 教育史料出版(売上げの20%が寄付)

CD「まめのうた」まめーず (1枚につき10円寄付)

CD「愛ってなぁに」「小さな贈り物」木村真紀 木村真紀CD制作委員会(1枚につき50円寄付)

(2) イベント・キャンペーンの実施と他団体イベントへの出展

昨年に引き続き、様々な組織のご協力、ご協賛を得て、子ども達への応援の輪を広げるために「こどもの日募金キャンペーン」や「こどもまつり2007」を開催しました。

また、多くの人が集まる機会に出店や展示参加を行い、広く市民や企業、組合等へファンドの認知を高めるよう取り組みました。

新聞記事掲載 9件

(神奈川新聞、朝日新聞、日本経済新聞、はまかせ、タウン新聞、新横浜ビュー)

雑誌掲載 1件(アリスセンター「たあとる通信」)

こどもの日募金キャンペーン

開催日程: 2006年4月30日(土)~5月7日(日) *募金活動は5/5のみ

会場: 日本新聞博物館1Fロビー

参加者数: 約100人(5/5募金活動)

内容: バルーン募金、くじ引き、活動紹介展示

主催: 神奈川子ども未来ファンド

協賛: 日本新聞博物館、(株)ロイヤルウイング

協力: 横浜情報文化センター

こどもまつり2007

開催日程: 2007年3月10日(土) 10~15時半

会場: 日産スタジアム 東ゲート前

参加者数: 約3,000人(スタジアム動員数32,000人)

内容: 神奈川県内子ども・若者・子育て支援NPO20団体の活動紹介・物販飲食ブース出店等

主催: 同実行委員会、神奈川子ども未来ファンド

後援: 神奈川県、横浜市、川崎市、神奈川新聞社、(財)横浜市スポーツ振興事業団、TVK(テレビ神奈川)、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、FMヨコハマ、かわさきFM、アール・エフ・ラジオ日本

協賛: タカナシ乳業(株)、(株)ベネッセコーポレーション、エバラ食品工業(株)、(株)ダイイチ、(株)川口、神奈川新聞厚生文化事業団

協力: 日産スタジアム、横浜マリノス(株)、(株)横浜ベイスターズ

【展示・広報・出店等での参加】

第 77 回かながわ中央メーデー

開催日程： 2006 年 4 月 29 日（祝）
会 場： みなとみらい臨港パーク
出店内容： ポップコーン販売とバルーン募金、活動紹介、募金活動
主 催： 同実行委員会（事務局連合神奈川）

第 25 回横浜開港祭

開催日程： 2006 年 6 月 1 ～ 2 日（木・金）
会 場： みなとみらい臨港パーク
出店内容： 水あめ販売、活動紹介・募金活動
主 催： 横浜開港祭協議会、横浜市、横浜商工会議所、（財）横浜観光コンベンション・
ビューロー、（社）横浜青年会議所
協 力： 商店街ハナノアナ

2006 児童労働撲滅キャンペーン in 神奈川

開催日程： 2006 年 6 月 4 日（日）
会 場： 新都市ホール・横浜そごう正面玄関前広場
出店内容： 広報パネル展示、パンフレット・チラシの配布、募金活動
主 催： N T T 労働組合

フリフリフリマ（青少年のサポートを行う NPO の活動紹介・相談活動）

開催日程： 2006 年 9 月 9 日（土）
会 場： 神奈川県立青少年サポートプラザ
出店内容： ペット飲料販売、書籍（子ども未来応援商品）の販売と募金活動、活動紹介
主 催： 同実行委員会

ヨコハマふるさとまつり

開催日程： 2006 年 9 月 30 日（土）
会 場： 横浜公園（横浜スタジアム横）
出店内容： バルーン募金と寄付品の販売、活動紹介、募金活動
主 催： 同実行委員会（事務局横浜市労働者福祉協議会）

モトスミ・ブレイメン通り商店街 フライマーケット

開催日程： 2006 年 10 月 1 日（日）
会 場： モトスミ・ブレイメン通り商店街（川崎市中原区）
出店内容： 商店街関係者物品提供によるフリーマーケット・商店街ピンバッジチャリティ
販売、活動紹介、募金活動
主 催： モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合
協 力： モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合・井田みすぎ子ども会

第 23 回ダンボふれあいバザー

開催日程： 2006 年 11 月 23 日（祝）
会 場： 作業所ダンボ周辺（横浜市保土ヶ谷区和田町）
参加内容： バルーン募金、駄菓子販売、活動紹介、募金活動
主 催： 地域作業所ダンボ・福祉を考える会

クリスマスチャリティ

開催日程： 2006年12月23日(土)
会場： モトスミ・プレーメン通り商店街(川崎市中原区)
出店内容： お正月飾り・物品寄付品の販売、活動紹介、募金活動
協力： (株)飾一、モトスミ・プレーメン通り商店街

横浜F・マリノス ファン感謝デー トリコロールフェスタ

開催日程： 2007年1月28日(日)
会場： マリノスタウン(みなとみらい地区 新高島町)
出店内容： バルーン募金、活動紹介、募金活動
協力： 横浜マリノス(株)

2. 民間非営利組織への助成・技術支援

(1) 2006年助成対象団体への技術支援

助成対象団体に、助成金を効果的に活用してもらうことを目的に実施をしました。

対象： 2006年神奈川県子ども未来ファンド助成対象団体(うち希望した3団体)

内容： NPO実務(会計)・NPO法人格・労務相談

方法： 団体の希望に応じて、以下の専門家から1名が、団体を訪問。
相談、アドバイスを行いました。(ファンド事務局が同行)

【相談対応をいただいた専門家の方々】

* 堀眞一郎氏(社会保険労務士・中小企業診断士)

* 細野由美子(税理士・ファンド理事)

* 川崎あや(まちづくり情報センターかながわ事務局長(実施当時)・ファンド理事)

(2) 2007年助成選考委員会設置と選考

各方面の専門家による2007年神奈川県子ども未来ファンド助成選考委員会を設置し、選考委員会にて選考基準、選考方法を決定の後、対象団体の選考を行いました。

【2007年助成選考委員】

委員長： 神田 捷夫((株)京急百貨店相談役)

副委員長： 鈴木 祐司(大妻女子大学非常勤講師)

委員： 岩船 弘美(男女共同参画センター横浜北副館長)

小坏 淳子(横浜弁護士会子どもの権利委員会委員)

柴田 愛子(絵本作家・(有)りんごの木代表)

【2007年助成選考委員会開催状況】

第1回 2006年11月13日(月)13時半~15時半 かながわ県民活動サポートセンター会議室

第2回 2007年2月26日(月)9時半~13時半 かながわ県民活動サポートセンター会議室

(3) 2007年助成対象団体の決定と実施

2007年助成(予定総額2,700,000円)を県内NPOへ広く広報し、助成説明会を平日午前・平日夜の2回を開催し22団体からの参加、問い合わせを得ました。応募を受理した14団体から選考委員会の選考に基づき、6団体に総額2,244,000円を助成することを決定し、次の通り助成を行いました。

[2007年助成対象団体一覧] 助成総額 2,244,000円

	団体名	事業名 < > 内活動領域	助成金額
1	渋谷きんりん未来の会	<学校を活用した地域活動支援・居場所事業> 地域の居場所・支え合いの場におけるスタッフ 研修プログラムの実践的開発	500,000
2	(特)在日外国人教育生活相談センター・信愛塾	<外国籍児童・生活支援活動> 「在日外国人とつくるふるさとづくり～小さな輪を 大きな輪へ～」事業	400,000
3	鎌倉中央公園を育てる市民の会	<環境教育> 「小中学生のための体験学習」の指導マニュアル・ 報告書の作成	234,000
4	カラカサン ～移住女性のためのエンパワメントセンター	<外国籍児童・DV・生活支援活動>【継続】 フィリピンにつながる子どもサポート協働事業	500,000
5	ことぶき学童保育	<学童保育>【継続】 ことぶき子ども広場事業	350,000
6	茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会	<里山保全・環境教育>【継続】 水辺探検隊	260,000
			2,244,000

3. 子ども・若者、子育てに関する活動調査と情報収集・提供

(1) WEBサイトの充実

非営利イベント紹介ページは、2007年1月より神奈川新聞「情報バザール」欄への情報提供協力を開始し、情報提供の効果を更に高めることができました。子どもの居場所情報を検索できるデータベース「子どもの居場所情報箱(以下「情報箱」)」の情報更新も実施しました。

WEBサイト 2006年度アクセス数 25,683件(昨年比+14,283件)

(2) メールマガジン、広報紙発行

助成対象団体や寄付協力をいただいた個人・組織、またファンドをそれぞれにより身近に感じてもらうことをねらいに、広報紙構成を個人にフォーカスしたものに変更しました。メールマガジンの発行により、活動や助成対象団体の活動報告の頻度を高めることができました。

メールマガジン 月間+特別号 計15回発行、配信登録数約547件(2007年3月31日現在)
広報紙「ハンズ to ハンズ」10号～13号
10～11号(3,000部)12～13号(2,000部)発行

(3) 横浜市次世代育成支援関連企業懇談会の企画運営(横浜市子ども青少年局委託事業)

横浜市が、次世代育成支援行動計画に基づき「企業の子育て支援が推進されている」という目標実現のために、横浜市内の先進的取り組みを行う企業、市関連部署担当者、NPO等外部識者から構成される懇談会を開催、今年度内に3回実施されました。

ファンドは、昨年に引き続き、この懇談会の企画運営の事務局を受託しました。2年間の懇談会の成果は「働きやすい子育てしやすい横浜の企業づくりについて」(提言)としてまとめられ、「NPOと企業の連携による子育て支援」の視点が大きな柱として盛り込まれました。

(5) 講師対応

ファンドが、2006年度に対応した講師依頼や各種審議会・委員会は、次の通り
【講師・パネリスト等】

川崎市教育委員会主催講演会(2006年6月23日)

藤沢市教育委員会・藤沢市青少年センター・藤沢市青少年指導員協議会主催講演会

(2006年7月15日)

関東甲越地区肢体不自由養護学校PTA連合会主催講演会(2006年7月30日)

大田区立松仙幼稚園講演会(2006年11月7日)

世田谷区立中学校PTA連合協議会主催講演会(2006年11月10日)

泉区役所地域振興課主催講演会(2006年11月18日)

菅田中学校ブロック4校合同家庭教育学級主催講演会(2006年11月21日)

大和保健福祉事務所管内学校保健協議会主催講演会(2006年11月27日)

横浜市港北福祉保健センター主催講演会(2007年2月16日)

神奈川県女性防犯連絡協議会主催講演会(2007年2月24日)

つどいのひろば事業研修セミナー横浜分科会コーディネイター(2006年7月16日)

自治体学会分科会「市民・NPOと行政の関係づくり」パネリスト(2006年8月25日)

横浜市・横浜市体育協会「地域クラブ・アシスタント養成講座」講師(2006年10月21日)

横浜市旭区地域子育てサロン交流会講師(2006年12月11日)

横浜商科大学コース特論商店街の実際「商店街とNPOの連携」ゲスト講師(2006年12月12日)

跡見学園女子大学 マネジメント学部生活環境マネジメント学科ゲスト講師(2006年12月18日)

つどいの広場事業研修セミナー東京 分科会「市民の力を活かす子育て支援とは」コーディネイター

(2007年1月14日)

横浜市主催「コラボレーションフォーラム」基調シンポパネリスト(2007年2月24日)

かながわ子育てネットワーク主催「子どもの虐待を予防できる子育て支援をめざして」報告

(2007年3月17日)

神奈川県商店街連合会主催「個店の魅力を考える」パネリスト(2007年3月23日)

神奈川県主催「新しい公共を考える」シンポジウムパネリスト(2007年3月28日)

【各種審議会・委員会】

神奈川県地方税制等研究会税と暮らしを考える専門部会委員

横浜市児童福祉審議会委員

横浜市男女共同参画推進審議会委員

横浜市地域福祉計画策定・推進委員会委員

横浜市港北区ふるさとサポート事業運営委員

横浜市親と子のつどいの広場運営協議会委員

横浜市ボランティアセンター運営委員

4. 神奈川子ども未来ファンドの改革に関する取り組み

2005年度に行った神奈川子ども未来ファンド改革検討会で、理事会の機能整理、運営体制のあり方、理事が関わる団体や助成対象団体のファンドへの関わり、助成プログラムの総合助成金化等、ファンドの見直しに関する方向性について、様々な提言をいただき、2006年度は、その提言を踏まえ、ファンドの改革を行いました。

(1) 認定 NPO 法人の取得

ファンドの寄付を集めをさらに推進するために、認定 NPO 法人を取得をめざし、プロジェクトチームを組織して取り組みました。2007年3月末、認定 NPO 法人として認定を受けることができました。今回の認定期間は、2007年4月1日から2009年3月31日までの2カ年間となっています。

(2) 発信力の強い理事会をめざしファンド役員の改選

ファンドの理事会は、発足当初から子ども・若者や子育てなどにかかわる活動団体が核となり、その核を専門家、企業、大学などの有識者が支援していました。ファンドの発信力や事業遂行能力をさらに強化していくために、子ども・若者や子育てなどにかかわる活動団体だけでなく、外部への影響力が大きく、多様な人材で構成される理事会を目指し役員の改選を行いました。

(3) 神奈川子ども未来ファンド運営委員会の発足

支援者の広がりや事業の展開にとまない、今まで以上の活動の展開を行っていくために、理事会から委嘱を受けた運営委員会を2006年5月に設置しました。運営委員20名が、月2回の運営委員会をもとに事業の企画運営を担いました。運営委員会内部には、個別部会・ワーキングチーム(助成部会、広報会員拡大部会、ファンドレイズ部会、認定 NPO 法人取得プロジェクトチーム)を立ち上げ、活動を展開しました。

(4) ファンド運営ワークショップの開催

新体制がスタートしたことを契機に、今後、ファンドの理念をどのように外部へ発信していいのかを検討するため、ファンド理事及びファンド運営委員が参加してワークショップを開催しました。

【ワークショップ開催状況】

- 2006年7月13日 第1回 関係者のファンドの思いを共有する。
- 2006年8月7日 第2回 ファンドをどのように伝えるか。(個人・企業)
- 2006年10月3日 第3回 ファンドのキャッチコピーを考える。

【ワークショップファシリテーター】

鈴木 祐司氏(大妻女子大学非常勤講師)

【ワークショップを通じて最終的に作成されたキャッチコピー】

「あなたの思いを、届けます 神奈川子ども未来ファンド」

(5) 賛同人の増加

外部に影響力のある方々にファンドの応援団になっていただくため、積極的に賛同人の依頼を行いました。

現在の賛同者(2007年3月31日現在)

神奈川県知事、横浜市長、川崎市長、ゆず 北川悠仁・岩沢厚治(ミュージシャン)、
石井琢朗(横浜ベイスターズ選手)、三浦大輔(横浜ベイスターズ選手)村田修一(横浜ベイスターズ選手)、篠崎孝子(株有隣堂相談役)、岩宮陽子(株飾一会長)柴田愛子(児童書作家)、
汐見稔幸(東京大学大学院教授)、加藤彰彦(沖縄大学教授)、片岡玲子(立正大学教授)、
峪文隆((財)横浜市安全教育振興会理事長)、鈴木節夫(横浜市教育委員)
横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス

(6) 日産NPOラーニング奨学生の受入

日産自動車株式会社が実施する社会貢献プログラム「日産NPOラーニング奨学生制度」に協力し、
昨年に引き続き学生の受け入れを行いました。2006年度インターン生、桑名宏美さんには、2006年
助成対象団体の訪問レポートをHPやメールマガジンを通じて発信してもらったほか、各種PR活動
の準備・実施、資金調達依頼訪問活動など、民間ファンドの様々な活動を体験してもらうことができました。

(7) 会員制度の検討

寄付協力の方法をわかりやすくするために、会員制度と併せて寄付メニューを検討しました。

【2007年度末時点の会員数】

コア会員(法人の社員)	36名(前年度比+4名)
サポート会員	30名・組織(39口)
賛助会員	3名・組織

以上